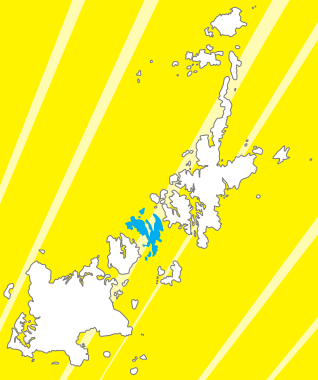
Now,

Take Off!!

to the Narushima



さぁ！飛び立て！

新しい自分になる島へ

長崎県奈留島
離島留学生
募集

五島列島
奈留島留学

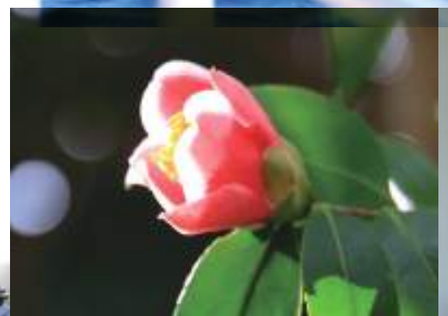
長崎県立奈留高等学校／五島市立奈留小中学校

島の人たちが家族！
豊かな自然に囲まれた
奈留島生活

長崎港を出航して約４時間。
見えてくるのが、この奈留島の景色。
この島には、地域が子どもを見守る環境と
一人ひとりが主人公になれる
少人数教育があります。

五島列島にある小さな学校で
新しい自分を見つけに行こう！

Narushima Life



ここは、小中高が一緒に交流する学び舎

1歳～18歳までがみんな仲間！

キラキラと輝く海を臨む丘の上に学び舎はあります。保育所から小学校、中学校、高校まで校舎が繋がり、グラウンドもみんなで一緒に利用します。運動会も文化祭もイベントも、島の子どもたちが一緒になって過ごしています。一番チカラを入れているのは「英語」です。週イチで「イングリッシュデー」があり、日常会話に英語を取り込んで過ごしています。高校生が小学生に英語の絵本だって読んでくれます。小さい頃から英語に慣れ親しみ、高校生になると、英検に積極的に挑戦しています。毎日が楽しくなる学び舎を、一度訪れてみませんか？

丘の上の学び舎

Learning on the Hill

校舎から海が見える ステキな場所！

奈留島ってどんなところ？

五島市奈留町（なるまち）	
人　　口	1,735人（2025年3月末現在）
面　　積	23.82㎢
島内施設	病院/駐在所/消防署/郵便局 薬局/歯科/スーパー/小中学校 高校/保育所/宿泊施設　他
島内交通	タクシー/レンタカー
見どころ	世界遺産江上天主堂/ 奈留高校愛唱歌「瞳を閉じて」歌碑 （作詞作曲：荒井（松任谷）由実）

学校 Eight attractions

E-アイランド・スクールとは?

English
英語教育の充実、実戦的な英語力

Experience
奈留高校、奈留島ならではの経験

Each and every
一人ひとりを大切にする教育、少人数教育

8つの魅力

まさに海外留学!英語教育に自信あり

開校してから60年の奈留高校は、生徒数27名ほどの小規模校です。奈留中学校から入学する生徒と離島留学制度を利用して入学する生徒が共に新しい環境で自律した高校生活を送ることができます。そこで付けられたキャッチフレーズは「奈留高校　E島　E明日　E仲間」。透明度の高い海とおいしい空気、豊かな自然の中で充実した高校生活が待っています。それも英語教育がメインという、まさに海外留学！ 新しい自分になりたい、新しい日常を送りたい、そして新しい仲間を見つけたい人。ぜひ、奈留高校で実現してみませんか?

1 少人数が強み

令和7年度は、生徒27名に対して学校職員21名。ほぼマンツーマンの少人数教育で、一人の生徒に21名の教職員がサポートする手厚い環境です。学習はもちろん未来に向けた進路にも丁寧な指導を行っています。生徒の得意なことを伸ばしながら、苦手なことはゆっくりと自分のペースで取り組める体制づくり。疑問が解決するまで一緒に考え話し合い、また、こまめな面談や面接練習など、希望進路の実現を強力にサポート。生徒と先生の距離がとても近く、何でも相談しやすいのが強みです。さらに、生徒一人ひとりが活躍できる場面が多く、主体性やリーダーシップ、協働する力を身につけることができます。

フォローしてね!

長崎県立
奈留高等学校公式
Instagram

長崎県立

奈留高等学校

生きた英語を身に着ける!
E-アイランド・スクール

2 英語重視のカリキュラム

英語が得意な人も、そうでない人も、生徒のレベルに合わせて丁寧に指導するプログラムが多く取り入れられています。授業内容は、全体的に英語科目が多く、海外からのネイティブスピーカーとマンツーマンに近いコミュニケーションはとても刺激的です。とくに「イングリッシュキャンプ」は、五島市のALTと一緒に奈留島の自然を満喫しながら英語に親しむ1泊2日の活動です。生きた英語を学びながら異文化交流にも触れることができる奈留高校ならではのプログラムです。

3 独自の多読指導（NAPER）

「NAPER（ネイパー）」とは、Naru Project on Extensive Readingの略称です。これは自分に合ったレベルの英語書籍を10冊以上読み、読解力のレベルを徐々に上げていくプログラムです。英語の絵本を小学生に読み聞かせる取り組みもあり、読んで人に伝えることにも重点をおく英語学習になっています。

4 英検受験率は長崎県でナンバーワン

1年生の授業の1/5が英語関連であり、2年生になるとさらに増えます。英検やGTEC(英語コミュニケーション能力を測定するオンラインテスト)には、ほぼすべての学生が挑みます。生徒の資格取得活動を全校挙げて行っているため、受験率は長崎県でナンバーワンになっています。

5 海外の学校と国際交流

海外の学校とオンラインで国際交流を行っています。日本語を学んでいる海外の高校生と、英語を学んでいる奈留高校の生徒がお互いの文化や学生生活について意見交換を行い、奈留島を中心に日本の文化を発信していくものです。年に一度のお土産交換も楽しみのひとつです。

6 修学旅行は海外へ！

シンガポールでの英語体験は人生観を変えるほど刺激的でした！

高校2年生になると、語学研修を目的とした海外修学旅行があります。近年ではシンガポールと台湾に行ってきました。シンガポールでは、シンガポールマネージメント大学での語学研修やシンガポール国立博物館で歴史について学びました。台湾でも現地の大学生と英語でコミュニケーションを取りながら市内をまわる英語学習プログラムを実施。夜は多様なアジアグルメを味わい、食文化にも触れることができました。英語はもちろんですが、異文化を学び、自分の価値観や視野を広げてもらうことも大きな目的になっています。

シンガポールで有名なホテル「マリナーベイ・サンズ」をバックにパチリ

スパイシーな東南アジアグルメも初体験！

7 小さな島の大きな挑戦！ 奈留実践

奈留島は周囲約75キロメートルの小さな島です。この島には貴重な文化と産業、資源など豊かな風土が広がっています。一方で課題もあるのが現状です。「奈留実践」は、SDGsの目標のひとつである「住み続けられるまちづくりを」の達成に向け、地域の良さを学び、地域の課題解決に向けた取り組みについて研究し、発信するチカラを養うことを目的とした授業を行っています。奈留島の暮らしを英語で紹介したPR動画の制作も！ 小さな島から大きな挑戦を続けています。

海に漂着するゴミを集めて島の環境を守る実践です！

奈留島で育てられたトマトは甘くておいしい！

島にはどんな暮らしと文化、そして見どころがあるのか、島を探検してマップをつくりました。

世界遺産である江上天主堂周辺の清掃にも参加します。

8 小中高が一緒になって開催する季節のイベント

イベント開催に向けてミーティングを重ね、小中高生がともに運営しています。少人数ですが、協力して展示や会場設営、掃除など、本番前から終了後まで一人で何役もこなし、まとめる力や聞く力を培っていきます。

小中高合同生徒打ち合わせ

新学期を迎えると、小学4年から高3までが「歓迎遠足」「体育大会」「かるた・百人一首大会」などさまざまな行事を計画・運営・準備します。どの行事も全員が楽しめるものになるよう、毎回真剣に話し合いを重ねます。

1月 ペタンク大会

フランス発祥の球技「ペタンク」を小学1年～高3までがチームに分かれて対戦する、奈留島で人気の交流イベント。経験豊富な小中学生は球を投げるのがとっても上手で、高校生は手加減なしの真剣勝負で挑みます。

英語を教えるって楽しい！

定期的 英語の本の読み聞かせ

高校生が小学生に英語の絵本を定期的に読み聞かせする授業です。どの文章を話しているか指さし確認しながら伝え、発音にも気を配ります。小学生は先輩から英語を学ぶ楽しさと同時に高校生への憧れも生まれています。

3月 英語スピーチコンテスト

毎年開催する「英語スピーチコンテスト奈留杯」は、1年間学習してきた授業内容から興味を持った題材や今後の抱負を約5分間のスピーチにまとめて発表します。審査委員には奈留中学生も参加しています。

定期的 小中高交流給食

高校生が小学生と中学生の教室を訪れ、一緒に給食を食べて交流を深める活動です。食後はグラウンドや教室でゲームやスポーツを一緒に楽しみ、年代を超えて相手への理解や優しさを身に着けています。

4月 歓迎遠足

島外から新たに仲間に加わる新入生歓迎セレモニーをはじめ、合同ゲーム、ダンスなど楽しい時間を過ごす、とっておきの時間。運営もすべて小学生から高校生が行う楽しい歓迎遠足です。

6月 小中高合同 かるた・百人一首大会

小学生低学年はかるた、高学年～高校生は百人一首に参加し、学年や校種を超えた熱い戦いを繰り広げます。

9月 小中高合同 体育大会

体育大会の前に行われる「結団式」では、小学生から高校生までが手をつなぎ体育大会が成功するよう頑張ろうと気合を入れます。本番ではみんなで制作したTシャツを着て応援合戦。大玉転がしやダンス、綱引き、玉入れと、すべての種目にみんなが参加します。

番外編！ 奈留島のクエ鍋つくり！

地域の皆さんと活動する学びのひとつに「水産教室」があります。五島水産業普及指導センター、下五島地区漁業士会、奈留町漁協の方々のご指導の下、高級魚であるクエを使った「クエ鍋」と、奈留島で養殖されているアジを使った「アジの漬け丼」つくりにチャレンジ！ 生徒はアジの3枚おろしにも挑戦しました。奈留島の海は本当に豊か！

奈留高校ってどんな高校？

離島留学体験記

Experience of studying

在校生インタビュー

奈留高校3年生
山本千乃（やまもとちの）さん

親と離れて過ごすことで分かった家族の愛と島の人の温かさ

中学3年生のとき、「今とは違う場所で生活をしてみたい」と福岡県から奈留島にやってきた山本さん。1年生の時から生徒会に入り、学級委員長、部活の部長とひとり何役もこなす多忙ぶり。「いろんなチャンスをいただき、自分の意見をしっかりと言えるようになったことに驚いています。何より、英語にこれほど積極的になれたのは、奈留島に来てからですね。いずれは海外留学もしたいと思っています」。英語の先生の熱心な指導に感動し学習意欲が高まったという山本さん。「小学生や中学生との交流も新鮮でした。奈留島に来なかったら年下と関わるなんてなかったと思います」。しま親さんのホームステイは「人のありがたさと家族の愛をより理解することができます」と充実の高校生活を語ってくれました。

奈留高校3年生
松村幸音（まつむらゆきね）さん

奈留島で学んだ英語を活かし将来は海外で働きたいです

地元っ子の松村さんは、奈留小中学校を経て奈留高校へ。ここで出会った離島留学生との交流に刺激を受けたひとりです。「話し方や価値観の違いに、最初は戸惑うこともありましたが、次第に共感することが多くなり、島外の世界を知るよい環境だなと思っています」。英語も小学生のころから当たり前のように話し、中学生の時には英語スピーチコンテストに出場していたほどの実力の持ち主。「離島留学生から、ここまで英語を話せるなんてスゴイね！と褒められたことがあり、改めて奈留島での英語教育のレベルの高さを実感しています」。また奈留高校は進路指導に手厚く、大学合格率も高いと話す。「将来は海外で働きたい」という松村さんはもう未来を見据えていました。

奈留高校2年生
松本奈留（まつもとなる）さん

こんな高校生になりたい！優しい先輩たちに憧れてきました

大分県に家族がいる松本さんは、小さい頃から祖父母の家がある奈留島を訪れていたそう。「祖父母が留学生のホストファミリーをしていたことで親しい先輩ができ、“こんな高校生になりたい！”と思ったことが決め手ですね」。高校生活は、生徒会や部活などで、人前に立って活動できる自分に驚いているという松本さん。アメリカの学生と交流する機会や海外への修学旅行と、英語を身近に感じる学習環境があることも刺激に。「小学生への絵本読み聞かせは勉強になります。大学に進学してさらに英語を学ぼうと思っています」と意欲的。離島留学制度については「もし興味があるなら、一度体験留学に来て欲しいです。奈留高校の生徒と話してもらい、島の自然の素晴らしさも実際に感じて欲しいです」。松本さんの目は輝いていました。

卒業生インタビュー

※インタビュー当時

長崎大学工学部3年
小池（こいけ）　隼（しゅん）さん

離島留学で自分の人生が大きく変わりました

「姉が奈留高校へ離島留学していたため、島での生活の楽しさは十分に分かっていました。中学生のときに一度体験留学をして、島の雰囲気や人々の優しさに感動して心が決まりましたね」と話す小池さんは、島に来て釣りにハマったそう。「アオリイカ、ヒラマサ、ブリ、クエなど高級魚が近場で狙えるってスゴイですよね。自転車で釣りポイントを見つけながら島中を走り、島生活を満喫しました」。笑顔いっぱいの小池さんは、奈留高校のマンツーマン授業にも「自分のペースに合わせて根気強く教えてくれた先生方に感謝です。塾にも行かず国立大学に合格できたのも奈留高だったからだと思います」と振り返ります。奈留島で人生が大きく変わったと話す小池さんは、普通では経験できないような貴重な体験が離島留学にはたくさんあると目を輝かせます。とくにホームステイでの生活は忘れられない日々だったようで、ホームステイのしま親さんには定期的に逢いに行っているそう。神奈川県から長崎へ。奈留島での学生生活はまさに小池さんの人生の宝となりました。

介護職
大西泰誠（おおにしたいせい）さん

自分の殻をやぶり前向きに進む自信がつきました

「大阪から親元を離れてきた不安もあり、ホームステイ先でも最初はぎこちなく過ごしていました。しかし、しま親さんが母のように温かく接してくれたこと、島の人たちが家族のように声をかけてくれたことが、楽しい学生生活につながったことは間違いありません」。大西さんは、中学生の時に縁あって奈留島を訪れ、奈留高校の夏の体験留学を経験。先生がとてもフレンドリーで会話も弾み、距離の近さに心動かされたそう。「分からない問題も気負いすることなくすぐに質問することができ、解決するまで丁寧に教えてくれる授業に、少人数の強みを感じました」。もともと内気でコミュニケーションが苦手だった大西さん。学級委員会での発表の場が多く、失敗を繰り返しながらも今では人と会話することがとても好きになったそう。「自分の殻を打ち破った感じですね。自分を大きく変えてくれた島の方々にいつか恩返しがしたいと長崎市内の介護職を選び、高齢者が多い奈留島へいつかは戻りたいと考えています」。大西さんの島への愛は今も続いています。

ただいま！　おかえり！

Living space

島の人に
支えられた３年間
卒業しても
また戻ってきたい
場所です！

留学生活を支える生活空間

離島留学生の生活拠点は、ホームステイができる島内のしま親宅と、学生寮の「しまなび舎」の2ヶ所があります。部屋の掃除や洗濯などは自分で行いますが、食事は朝昼晩と島の方々が用意。家庭の温かさを感じながら過ごすことができます。

学生寮のしまなび舎

※男子生徒のみ

卒業前のお別れ会は、
関係者みんなが焼き肉やパスタ、
刺身でもてなしました。

みんな
よろしくね！

島ナビ隊

奈留高校から徒歩約15分。離島留学の生徒を受け入れる男子寮「しまなび舎」はあります。建物は築100年の古民家を改修したどこか懐かしいたたずまい。1階はキッチンと食堂、1・2階で9名が入寮できる部屋があります。それもすべて個室！島のお母さんたちが、朝食からお弁当、夕食までを交代制でつくり、朝の登校から島暮らしに関するサポートは、島ナビ隊や地域の方々が関わっています。釣り好きな学生も多く、夕方に魚を釣ってくると、スタッフが捌いて夕食にしたり、調理法も教えたり、まるで家族のような生活が繰り広げられています。育ち盛りの学生が多いこともあり、みんな食欲も旺盛。毎日の献立にも気を配ります。学生の誕生日には手作りのケーキが登場し、卒業が近づくと関係者みんなが集まってお別れ会。島の人たちがまるで自分の子どものように接してくれる「しまなび舎」での寮生活は、毎日が思い出になる優しい時間が流れています。

地域のみんながサポート
自律を促す学生寮

兄弟のようにいつも仲良しの寮生たち

釣りたての刺身は
びっくりするくらい旨い！
日々の夕食や手製のお弁当。
人の温かさに感謝です。

山嵜誠一郎さん

テスト勉強もみんなでするとがんばれるね！

寮生みんなでメリークリスマス！今夜は特別メニュー。

「しまなび舎」のみんなも卒業式に参加。
学生の門出を一緒に祝います。

ホームステイのしま親宅

お弁当に愛情を感じますと福山魁貢さん(左)

みんなの成長は
私にとってのご褒美なんです

松本美津子さん

奈留島では、家庭で留学生を受け入れる「しま親」さんがいます。なかでも離島留学を始めた2018年から学生を引き受けている松本美津子さんは、今年で8年目。学生から「みっこさん」と呼び親しまれています。早朝5時からお弁当を作っておみ見送り、授業と部活が終わって19時すぎに帰ってくる学生を「おかえり！待っていたよ～」と、まるで母のように迎える美津子さん。学生を下の名前で呼び合うほどの仲の良さに「だって、我が子のようなものですからね」と笑顔に。学生もそんな美津子さんを心から信頼し、何かあったらいつも相談しているそう。「ご飯もいつもおいしく、健康的な食事に感謝しています」と声が弾む。美津子さんも「しま親として受け入れているからには、卒業するまで責任があります。一人ひとりを尊重し、信頼の心で接しています」。〝学生さんは私の宝なんです〟と話す美津子さん。〝大人になったら恩返ししたい〟という学生。素晴らしい交流と信頼が育まれています。

しま親さんと学生さんの間に
確かに生まれる信頼と愛情

みっこさんの
健康的な手料理も
毎日の楽しみです。
島で親しい友人もでき、
サイコーな青春を
過ごしています！

福山魁貢さん

お部屋も広々！整理整頓がきちんとされていました。男女合わせて5部屋。男性の部屋は別棟になっています。

釣って来た魚を自分でさばいてみんなで味わいます！と川内榮才さん(左)。みっこさんの孫である松本奈留さん(右)は、手作りハンバーグが大好き！と笑顔

みんなの名前を知っている！

ひとつの学び舎

子どもたちがイキイキと元気に学べる交流の場

奈留島の校舎は、海が見渡せる丘の上にすべて集合しています。広いグラウンドを囲んで保育所、小中学校、高校までが渡り廊下で繋がり、さまざまなイベントや活動を合同で行っています。行事だけでなく、中学校の先生が小学生の専門科目を担当する乗り入れ授業もこの学び舎ならでは。「交流給食会」は、小中高の生徒が机を並べ、お昼ごはんを一緒に味わいます。島の給食センターの方が手作りするお昼ご飯は、毎日の楽しみです。ふわふわのプチバン、もっちもちの蒸しパン。豊かな漁場が広がる奈留島で水揚げされた魚料理は、最高のごちそうです。

食後はグラウンドへ一斉に駆け出し、学年を超えて遊びます。これがとにかく楽しい！ 日常的に下の世代と上の世代が交流できる奈留の子どもたちは、お互いを思いやる心を人一倍持っています。もちろん名前を知らない子なんてひとりもいません。小学生は中学生に、中学生は高校生に憧れている。この素直で純粋な人間づくりが奈留島の強みです。

現在（令和7年4月時点）、奈留小学校には全児童22名、中学生は15名。高校生は27名が在籍しています。それぞれが少人数だからこそ何かしら役割が与えられ、人前に立つことも当たり前に。授業中ぼんやりしている暇もなく、当てられて発言することが日常になっています。つまり、自分の声で考えをしっかり伝える発言力を持っているのです。

小学生は学校が終わると一目散に放課後体験クラブ「なるベース」へと向かいます。離島留学学生寮「しまなび舎」のとなりに、一軒家をリフォームした空間があり、子どもたちはここで遊びながら親のお迎えを待ちます。地域おこし協力隊や島のみなさんが創意工夫して完成させた空間は子どもたちの秘密基地のような内装に。月ごとにいろんなイベントやプログラムが計画され、運動あそびやダンス、英語で工作やゲームを楽しんだり、バレンタインデーの時にはチョコレートのお菓子作り、夏休みはSUPに挑んだり、デイキャンプでカレーを作ったりと、子どもたちを飽きさせない年間プログラムがたくさん！ 島の宝である子どもたちに、島のみんなが愛情を注ぎ、見守る子育てが、奈留島の大きな魅力です。

奈留小中学校

小学校

みーんなが仲良し！

子どもガイド

2階建ての立派な校舎に飾られた校訓は「なせばなる」。小1から中3までを前・中・後期に分け、系統的な教育を実施しています。小学1年生から英語に親しみ、小学6年生では、中学校1年生の英語教科書を一部履修するほど。ALT（外国語指導助手）との英語学習や「起立、気をつけ」のあいさつから全て英語の「イングリッシュデー」など、英語が身近なものに。また、ふるさと学習にも力を入れており、小学3、4年生では、観光客に島内を案内する「子どもガイド」の取り組みも。

中学校

英語も工作も体験も！
プログラムがいっぱいの

放課後体験クラブ なるベース

お菓子づくりだーいスキ！

学童の機能を持った放課後体験クラブ「なるベース」には、地域の方を島のマエストロ（講師）として迎え、物づくりや竹細工、釣りなど島ならではの体験や交流を行っています。またスタッフや島ナビ隊の特技を生かした楽しい体験学習も。保護者にとっても安心して預けられる場所になっています。

奈留さくら保育所

いまからオソトであそびます～

奈留さくら保育所は、令和6年に小中学校の校舎内に移設。ゼロ歳から3歳までの「もも」、年少の「ゆり」、年中の「ばら」、そして年長の「さくら」の4クラスがあります。天気のいい日は同じ園庭で遊んだり、小学校の授業に年長さんが参加したり、交流の輪が広がっています。もちろん、校舎が同じなので小学生が遊びにくることも。お互いにいたわり面倒を見ることで、心の成長にもつながっています。

渡り廊下

小中学校と高校をつなぐ長い渡り廊下

奈留高等高校

子どもと一緒に新しい生活を

家族留学体験記

博多港から8時間の別世界 親子がはじめて体験した本当の夜空

それは、はじめて地球を体感した時間だったという小池さん親子。ビルに囲まれたカクカクとした空ではなく、360度広がる宇宙（そら）。思わず深呼吸したくなるほど澄み切った空気と、島の美しさに心を奪われた小池さん親子は、福岡から奈留島に上陸して数時間で、この島に住むことを決断しました。

「家族留学で奈留島へ行った息子の同級生家族と夏休みに出会い、奈留島をはじめて知りました。この翌月の9月の連休に私たちも行くことにしたんです。最初は五島列島がどこにあるかも知らなかったんですよ(笑)。島にはじめて上陸して散歩をしていたのですが、心地よい風、海の広さ、ゆったりと流れる時間……。もう直感的にここに住みたいと思っている自分がいました。その気持ちは子どもたちも同じだったようで、すぐに奈留小学校へ足を運び、体験授業に参加させてもらうことになったのです。校長先生をはじめいろんな先生方とお話をしたのですが、児童のみんながイキイキとしていて、この学校の良さがすぐに分かりました。都会だと、一学年200名を超えるマンモス校は当たり前です。先生の名前も知らなければ、クラスメートの名前さえも知らないことが多いですよね。でもここはみんなが名前を知っていて、仲がいい。時には中高生とも遊べる素晴らしい環境に心奪われました。福岡に帰るなり、主人をはじめ家族に家族留学の説明をしたのですが、最初はみんなポカーンとしてました(笑)。しかし反対する理由はひとつもない！と協力してくれることになり、また家族留学には補助制度があり金銭面で助けられることも決め手となり、話はトントン拍子に進みました。なかなか見つからなかった家探しも、地域の皆様の尽力によって素晴らしい家が見つかり、もう感謝しかありません」。小池さんの熱い気持ちが島民に伝わったのか、たった半年間で家族留学が実現しました。

「島生活は感動の連続です。まず、朝が早い。漁を生業にしている人も多いので、朝早くから島が動いています。子どもたちの登校は7時すぎ。朝6時には起きて朝食作って食べて…という時間の中に、朝日に見惚れる時間も。空と海がだんだんと赤く染まっていくひとときは、朝ごはんを食べるのも忘れるくらい美しいですね。夜は満天の星空の下、星座を言い合う子どもたちの後ろ姿を見ていると、奈留の自然そのものが子どもを育ててくれていると感じています」。

1日があっという間に過ぎてしまうほど、充実の日々を過ごしている小池さん親子。子どもたちがイキイキと生きている姿に、幸せを感じる生活が続いています。

小学5年生の息子と、小学2年生の娘と一緒に令和5年に奈留島へ。家族留学3年目を満喫中。

島の学校で学ぼう!

しま留学とは

小学3年生から中学3年生までの島外児童生徒を1年間受け入れる教育プログラムです。生徒を受け入れる「しま親」の家庭の中でテレビやゲームではない遊びを楽しみ、都会とは違った本物の自然の中でのびのびと成長することができます。

家族留学とは

小学生から中学生までの子どもとその親（父か母かどちらか）が一緒に島に住み、子どもを島の学校に通わせる教育プログラムです。家族が住む家探しのお手伝いも行います。

奈留島で

ここは、人口1800人の小さな島。
大人も子どもも一緒になってイベントやコンサートと
地域活動も積極的に行っています。
本物の自然と島の人たちに見守られながら
新しい生活をはじめてみませんか？

コンビニはないけど、
優しい島の人がいるスーパーがあります。
ゲームセンターはないけど、
とびっきりキレイな海があります。
ハンバーガーやピザの店はないけど、
めっちゃうまい魚がいっぱいです。

待っちょっよ。

島外からのアクセス

交通アクセス

長崎港から福江港（五島市）を経由して奈留港までフェリーが運航。福江港から奈留港は1日5便運航中。博多港（福岡）からもフェリーが往来しています。

福江島経由で奈留島へ	
飛行機	長崎空港から約30分／福岡空港から約40分
ジェットフォイル	長崎港から福江港まで約85分
福江港から奈留港	高速船で約30分・フェリーで約45分

直行で奈留島へ	
長崎港から奈留港	フェリーで4時間20分
博多港から奈留港	フェリーで7時間40分

奈留島の保育所・学校について

奈留さくら保育所
☎0959-64-3311

奈留小中学校
☎0959-64-2004

奈留高等学校
☎0959-64-2210

各留学制度情報

離島留学制度（高校生）
長崎県立奈留高等学校
☎0959-64-2210

しま留学・親子留学（小中学生）
五島市教育委員会 学校教育課
☎0959-72-7801

島についてのお問合せ
奈留まちづくり協議会
☎0959-64-3203

制作：奈留まちづくり協議会

2025年6月発行